2017年7月9日

福音書からのメッセージ

わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。
（マタイによる福音書11章29節）

今日の箇所の冒頭に、神さまをほめたたえるイエス様の姿がでてきます。それは神さまがそのお恵みを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになったからでした。まさに大逆転です。それまでの常識がひっくり返されています。完成された者にではなく、幼子や未熟な者に、神さまの恵みがあらわされる。それこそが、神さまのみ心なのだとイエス様は言われるのです。

神さまの恵みは排他的なものではなく、すべての人に与えられます。ではその恵みとは、どのようなものでしょうか。イエス様はひとつの言葉を、わたしたちに与えられます。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

この言葉を、少し原文に忠実に訳してみたいと思います。このようになります。

来なさい！すべての者たちよ。わたしの元に。あなたたち労苦し、重荷を負う者は。「わたし」があなたたちを休ませよう。

イエス様は呼びかけます。来なさい、と。聖書では「だれでも」となっており、来る、来ないはその人の自由というようにもとれます。しかしイエス様の呼びかけは、「すべての者たち」に向かっています。みんな来なさい。全員来なさい。それがイエス様の思いなのです。

そして「わたし」であるイエス様が、すべての人を休ませてくれます。休むとは、ひと時の休息というレベルではありません。ある人はこんな風に訳していました。「新しい、新鮮な命が与えられる」ことだと。砂漠をさまよっている中、ようやくオアシスを見つけ、駆け寄って水を手にすくい、思いっきりのどを潤す。「ああ、生き返った」、心の底から、そのような思いが沸き上がる。それがここでいう休息です。

そしてイエス様は、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」と続けます。わたしたちはたくさんの重荷を背負って生きています。わたしたちが自分で担う軛は、肩に食い込み、首を絞めつけるようなものかもしれません。しかしイエス様は、わたしの軛を負いなさいと言われます。イメージしてください。この当時、家畜は二頭が横に並んでくびきにつながれていました。わたしたちがもし左側にいたとしたら、右側にいるのは誰でしょうか。それは、イエス様ではないでしょうか。イエス様がわたしたちの横にいて、わたしたちの歩みに合わせて歩んでくださるのです。

イエス様は、悲しむ人がいたら一緒に涙を流し、苦しむ人の横で代わりに血を流し、神さまに対して負い切れない負債を負った人の代わりに十字架につけられます。わたしたちはイエス様の真横で、その姿に学んでいきたいと思います。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/